

開成営農経済センターだより 令和6年8月

TEL 83-5165

開成営農経済センターからのお知らせ

今月の注文書等について

「秋期生産資材」「落葉果樹苗木」「椎茸菌・器具・原木」
「ラウンドアップマックスロード」「エコロームFC」
※お申し込みのお忘れがないようにご注意ください。

8月の自己取り商品について

「野菜・果樹 秋肥料・農薬」「ヒルノックW」
「米出荷用紙袋・ゴム印」「保有米袋・バインダー紐等」「くず米用一空袋」
令和6年8月15日(木)・16日(金)・17日(土)

9:00~15:00の間に取りに来てください。

(上記以外のご注文品は準備ができ次第、ご連絡いたします。)

技術顧問の日 (園芸相談)	農業の専門家が農作業の相談に応じます。 土曜日以外は在籍予定ですが、都合により不在の場合がございます。
お米の日	神奈川県産の玄米を特別価格で販売します。(毎月第2・第4火曜日) <u>8月13日・27日となります。</u>

作物管理情報

——【か き】*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

病害虫防除

8月上旬

○カキノハタムシガ スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回

カメムシ類 又は ダントツ水溶剤 4,000倍 25g/水100ℓ 収穫7日前 3回

コナカイガラムシ類

○うどんこ病 トップジンM水和剤 1,500倍 66g/水100ℓ 収穫前日 6回

8月下旬

○うどんこ病多発園 トリフミン水和剤 3,000倍 33g/水100ℓ 収穫前日 3回

灌水

肥大促進・充実のため、梅雨明け後に乾燥が続く場合は、1週間に1回程度灌水をしましょう。

——【く り】*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

病害虫防除

8月上旬

○実炭疽病 ベンレート水和剤 3,000倍 33g/水100ℓ 裂果前但し収穫14日前 4回

○モモノゴマダラノメイガ フェニックスフロアブル 4,000倍 25ml/水100ℓ 収穫前日 2回

干ばつ対策

土壤の乾燥を防ぐために敷きわらをしましょう。(※梅雨明け前後に)

【水 稲】

水管理（高温障害の対応） **重要**

出穂後20日間の平均気温が26～27℃以上の高温で推移すると、高温障害粒（乳白粒・心白粒等）が多発し、品質が低下してしまいます。

出穂前15日、出穂後10日間は水を切らさないようにしましょう。

その後は、根の活力維持のため間断かん水に努めましょう。35℃以上の異常高温が予測される場合は、掛け流しかん水をすることにより、圃場の気温が低下して被害を軽減することができます。

病害虫防除 **8月上旬～中旬**

○斑点米カメムシ類

〈雑草管理〉

- ・ 出穂前の畦畔の草刈りは出穂の10日前までに済ませましょう。
- ・ 出穂前の草刈後3週間程度で雑草が結実し始めます。1回目の防除後に直ちに畦畔の草刈りをしましょう。
- ・ 収穫前の畦畔草刈りは収穫期2週間前以降に行いましょう。

【8月上旬】 ・ 粒剤・豆つぶ剤 出穂7日後	カメムシ類	・ スタークル粒剤(3kg/10a) ・ スタークル豆つぶ(250g/10a) ・ スタークル顆粒水溶剤 (2000倍 50g/水100ℓ 100ℓ/10a)	7日	3回
【8月中旬】 ・ 粒剤：豆つぶ剤 出穂21日後 ・ 顆粒水溶剤 出穂24日後				

斑点米カメムシの防除について（注意喚起）

昨年、斑点米カメムシによる被害がとて多くみられました。今年も猛暑の影響で多くの斑点米カメムシが発生する可能性があります。畦畔の雑草管理と薬剤散布を組み合わせた防除を行いましょう。

カメムシ対策でスタークル（粒剤、豆つぶ剤、顆粒水溶剤）ご購入の方へ（正組合員様向け）

地域農業応援プログラム（病害虫駆除対策）にて購入費（税抜）の1/2が助成対象になります！

- ①申請は、年度内1回限りです。（複数回購入の方は最後にまとめて申請をお願いします。）
- ②申請には領収書等が必要です。捨てずに保管してください。
- ③申請期限は令和7年2月17日（月）までです。

（期日間際は混雑が予想されるため、1月中までのお手続きをお勧め致します。）

・ 申請時必要書類 申請書 認印 領収証（助成対象の名称が記されたもの）

ご不明な点は職員へお問い合わせください。

防雀網の設置 **開花時に影響が無いように、出穂前に済ませましょう。**

自然対策

- 豪雨の時 水口、水尻を閉め過剰な水路からの流入による倒伏を防ぎましょう。
泥水が入った場合には、すみやかに新鮮な水と入れ替えましょう。
- 強風の時 水口、水尻を閉め深水にして、風による倒伏を防ぎましょう。

——【温州みかん】*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

病害虫防除

7月下旬～8月中旬

○黒点病	<u>ジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫30日前 4回</u> <u>又はペンコゼブ水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫30日前 4回</u>
○カイガラムシ類 チャノキロアザミウマ	コルト顆粒水和剤 3,000倍 33g/水100ℓ 収穫前日 3回
○ミカンハダニ・ミカンサビダニ アザミウマ類	<u>メビウスフロアブル(劇) 3000倍 33ml/水100ℓ 収穫7日前 2回</u>

8月下旬～9月上旬

○黒点病	<u>ジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫30日前 4回</u> <u>又はペンコゼブ水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫30日前 4回</u>
○ <u>ミカンハダニ</u> <u>ミカンサビダニ</u>	<u>ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫前日 1回</u> <u>又はダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 1回</u>
○チャノキロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回

品質向上対策

- ① 熟期促進を目的に、フィガロン乳剤の散布
満開後60日と80日の2回 3,000倍 300ℓ/10a
- ② 被覆資材の利用 敷設は8月中、取り外しは収穫前に行う
着色向上を目的の場合は、樹冠下に敷く(部分被覆)
着色向上と増糖・除草を目的の場合には、園内全体に敷く(全面被覆)

——【湘南ゴールド】*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

8月下旬～9月上旬

○黒点病	<u>ジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫90日前 4回</u> <u>又はペンコゼブ水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫90日前 4回</u>
○ <u>ミカンハダニ</u> <u>ミカンサビダニ</u>	<u>ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫前日 1回</u> <u>又はダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 1回</u>
○ <u>チャノキロアザミウマ</u> <u>ヤノネカイガラムシ</u>	<u>スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回</u>
○ <u>かいよう病(単葉散布)</u>	<u>コサイド3000 2,000倍 50g/水100ℓ</u> <u>(薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する)</u>

——【中晩柑】*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

8月下旬～9月上旬

○黒点病	<u>ジマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫90日前 4回</u> <u>又はペンコゼブ水和剤 600倍 166g/水100ℓ 収穫90日前 4回</u>
○ <u>ミカンハダニ</u> <u>ミカンサビダニ</u>	<u>ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100ℓ 収穫前日 1回</u> <u>又はダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 1回</u>
○ <u>チャノキロアザミウマ</u> <u>ヤノネカイガラムシ</u>	<u>スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫前日 3回</u>

はるみ・不知火は、初秋の乾燥で細根が枯死しやすいため、水分ストレスを受けやすく、小玉、高酸果の原因になります。敷わらマルチ、ナギナタガヤの草生栽培により梅雨明け後から秋にかけての土壌の過乾燥を防ぎましょう。著しく乾燥が続く場合は灌水も検討しましょう。また、1果当たり100葉を基準に早めの摘果をしましょう。特にはるみは着果量が多いと樹勢の低下や枯死の原因になりますので、樹冠上部1/3から1/4は必ず全摘果をしましょう。

——【レモン】*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

病害虫防除 8月下旬～9月上旬

○ミカバグニ・ミツバグニ ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100㍓ 収穫前日 1回
チャノホコリダニ 又はダニゲッターフロアブル 2,000倍 50ml/水100㍓ 収穫前日 1回
○かいよう病・黒点病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓
(薬害軽減のためクレフノン200倍を加用する)

※毎年黒点病が多い園では、枯れ枝の園外廃棄を徹底し、ストロビードライフロアブル3,000倍(収穫14日前 3回)を散布しましょう。

——【う め】——

病害虫防除 8月～9月

○ケムシ類 ダントツ水溶剤 2,000倍 50g/水100㍓ 収穫前日 3回

夏季剪定 8月中旬～9月中旬まで

縮間伐を行い周囲から光が当たるようにするとともに、立ち枝(覆う枝)の間引きで樹の内部まで光が入るようにして翌年の花芽の充実を図りましょう。8月中に終わると効果が高いです。

(小梅や樹勢が弱っている樹は、夏季剪定は控えめにしましょう。)

——【キウイフルーツ】——

夏季剪定終了後に発生した夏枝や、剪定した部分から出る新梢が巻きついた部分を取り除きます。結果枝の葉を充実させ、果実へ養分が行きやすくするために、新梢を伸ばさないようにしましょう。※カメムシ発生時は、スタークル顆粒水溶剤2,000倍 50g/水100㍓を散布(収穫前日 3回)

乾燥防止対策

初期肥大の時期には土壌を乾燥させないようにしましょう(敷わら・灌水)

——【お 茶】*下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。——

土づくり

8月中旬までに苦土石灰120kgと有機物をすきこみ30cmくらいの深さに行いましょう。

病害虫防除

8月上旬～中旬

○チャノホコリダニ・チャノカゲモンハダニ ロディー乳剤(劇) 1,000倍 100ml/水100㍓ 摘採7日前 1回
チャノカガ・チャノハダニ・チャノカゲモンハダニ

○炭疽病 オンリーワンフロアブル 3,000倍 33ml/水100㍓ 摘採7日前 2回

8月中下旬

○カンザワハダニ ミルベノック乳剤 1,000倍 100ml/水100㍓ 摘採7日前 1回

整枝

一番茶以降、更新作業を行ってない園では、上旬をめどに整枝を行いましょう。

ただし、樹勢が極端に悪い場合は、整枝は行わないようにしましょう。

※農薬名に網掛けがあるものは購入時に印鑑が必要となります。

<注意> 農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。

・「収穫〇日前」：定められた使用時期。記載されている収穫前日数まで散布ができます。(前日は24時間前)

・「回数」：農薬成分の総使用回数のこと。栽培期間中、何回散布可能か確認しましょう。

※店舗により農薬の在庫状況が異なります。記載の農薬を購入される場合は事前に在庫確認をしていただくとスムーズに購入できます。